ごみ減量化に一人ひとりが取り組みましょう!

現在の焼却施設の状況は

三福寺町にある資源リサイクルセンターの焼却施設は、昭和61年3月から稼働しており、今年で32年が経過しました。

久々野町にある久々野クリーンセンターの焼却施設は、平成2年3月から稼働しており、今年で28年が経過しました。

焼却炉は、老朽化が進んでいますが、日々のメンテナンスや定期的な機器更新により、現在も安全に稼働しています。

また、施設の稼働においては、定期的に排ガスや周辺土壌などの検査を行い、その結果を近隣住民の皆さまにお知らせするなど、周辺環境の保全に取り組んでいます。

資源リサイクルセンター

久々野クリーンセンター

現在の焼却施設の延命化

市では、老朽化したふたつの焼却施設を平成37年度まで良好に稼働させるため、施設の延命化対策工事を平成30年度から32年度にかけて実施します。

この対策は、施設の安全な稼働、適正な排ガス処理によるごみ焼却を継続するために、焼却炉内部の修繕、排ガス処理施設やコンピュータなどの更新工事を実施するものです。

埋立処分地の状況は

ごみを焼却した後の灰や、不燃ごみなどを選別して残ったものは、埋立処理しています。

埋立ごみの中身は、焼却灰、プラスチック、陶器、ゴム、汚泥などになります。

現在、埋立処分地として利用している資源リサイクルセンター第2次埋立処分地、久々野クリーンセンター埋立処分地及び丹生川埋立処分地の埋立可能年数(見込み)は左記のとおりです。

できるだけ長く使うために、埋立量を減らしていくことが必要です。

	埋立可能年数(H29見込み)
資源リサイクルセンター第2次埋立処分地	約13年
久々野クリーンセンター埋立処分地	約2年
丹生川埋立処分地	約8年

資源リサイクルセンター第2次埋立処分地

◎毎日発生するごみは、ごみ処理施設に持ち込まれて処理を行います。
ごみ処理施設の稼働は、施設の近隣住民の皆さまのご理解とご協力により成り立っています。

新しいごみ焼却施設の建設が必要となっています

ごみ焼却施設の老朽化が進む中、これまでは、維持修繕および延命化による施設の性能維持に努めてまいりましたが、施設を取り巻く環境の変化などにより、新しいごみ焼却施設の建設が必要となっています。

①可燃ごみの質の変化

現在の焼却施設を建設した当時のごみは「生ごみ」が多く、その処理に対応した設計になっていましたが、近年、可燃ごみの質が変化してきており、燃えやすく、急激に焼却炉内の温度が上昇する「紙・布類」の割合が多くなっています。

焼却炉内の温度が急激に変化すると炉内耐火物が傷みやすくなり、排気ガスの成分も不安定になります。

そのため現施設では、設計と異なるごみによる急激な温度変化を抑えるため、ゆっくりかつ慎重な運転管理が必要となっています。

②施設の老朽化

施設の稼働年数の経過により、「焼却できるごみの量(処理能力)」が減ってきています。

③最新技術の導入

近年、ごみ質の変化などに対応した焼却処理や排ガス処理などにおいて、技術開発が進んでいます。

現施設の抱える課題を克服し、環境にやさしく安定したごみ処理を将来に向けて継続していくため、新しいごみ焼却施設を建設することが必要であると考えています。

なお、現在のふたつの焼却施設は、延命化工事を実施し、平成37年度末まで稼働させることとしています。

現在、新しいごみ焼却施設の建設候補地として、資源リサイクルセンター(三福寺町)の焼却施設の東隣を選定し、近隣住民の皆さまへの説明を行っています。

次回は、ごみ処理施設の環境対策などについてお知らせします。